神の恵みの戒規（第１コリント 5:1-１３）

2020年6月14日（日）　　ジョーイ・ゾリーナ牧師

今日は一旦、第１コリントからメッセージをし、来週また第２コリントからのシリーズに戻ります。パウロは第１コリント人への手紙を紀元後54-55年頃に書きました。教会の規律を含む、教会の色々な問題を学んだ後に書いたものです。では、コリント5:1-13を開き、ここで私たちに問われる質問はこれです。「教会の戒規とは何か？」「どうして訓戒が必要なのか？」「それは愛なのか？」この質問に答えるにあたり、今日も３つのポイントから洞察していきます。1.神を信じる者が許容してしまう罪　2.キリストが命までかけた罪　3.私たちの内で働かれるキリストのきよさ

1.神を信じる者が許容してしまう罪

１～５節

「1 現に聞くところによると、あなたがたの間にみだらな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどのみだらな行いで、ある人が父の妻をわがものとしているとのことです。 2 それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。 3 わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。 4 つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、 5 このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。 」

ここで、「神を信じていない人たちの間にもないほどのみだらな性的不品行」に関する知らせがパウロに届きました。「父の妻をわが者としている」行いがあると。あるクリスチャンが、自分の父親の妻（継母）とセックスをしているという知らせです。おそらく皆さんは、「なんと非道な！」と思うかもしれません。しかしあなた以上に、きよい神様が私たちの罪に対してどう感じているか想像できますか？パ

ウロは、これは、「クリスチャンではない人々の間にもないほどのものだ」と言いました。実際のところ、このような関係は旧約聖書では禁止されていました。（レビ記18:8, 申命記22:22) それは、許されず、ローマの法律で禁止されていました。皮肉にも、コリントの教会はそれを許容していました。

気づいてください。パウロは女性のことについては書いていません。それは、彼女はクリスチャンではなかったということです。だから、様々な性的行動を許容していたローマ人たちでさえも、この類の性的行動は許さなかったのです。そしてここでパウロはこの罪を「性的不品行」と呼んでいます。私たちは罪を、「痛み、間違い、弱さ」などという言葉で小さく見てしまってはいけません。もし、医者があなたの体に癌があるのに、ただの風邪だと言ったら、あなたは否定された人生を送ることになります。そして癌を風邪のように扱い、治療することはできません。いいですか、「性的不品行（Sexual immorality)」とは、ギリシャ語の「pornria」という言葉から来ており、「ポルノグラフィ」の語源です。それは、「あらゆる類の淫らな行い」を意味します。そして性的不品行は、結婚の契り外で行われる全ての性的行動のことを指します。だから、パウロは2節で教会に対して「それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。 」と言っています。パウロは、この男性は「癒し」が必要だとは言いませんでした。パウロは、「彼を除外すべきではなかったのか」と言いました。いいですか、コリントの教会は、この男性を裁くことができませんでした。なぜならこの男性は高い社会的地位を保っていたからです。なぜでしょうか？ローマの法律に従うなら、この男性はその性的行動に対して逃れることはできなかったはずです。しかし、ローマの法律は彼に対して何もしていなかったようです。コリント人たちは彼の高い社会的地位を誇りに思っていたのです。教会や社会は、よくその中で高い地位に立っている人や力を持っている人に対して盲目になることがあります。しかし、パウロは「あなた方は高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。」と言いました。いいですか、罪に対して悲しむよりも盲目になっていたのです。さて、なぜパウロはマタイ18:15-19の過程を１つ１つ踏まなかったのでしょう？なぜパウロはその過程を通り越して「彼を除外するべきではなかったのか」という最終段階まで飛んだのでしょう？いいですか、この事例はすでに公になっていたものでした。何よりも大切なことは、この男性は悔い改めをしな

い、頑固な心の人で、教会はそれを誇りにし、見て見ぬふりをしていたのです。だからパウロは早急に行動したのです。

パウロは3節で「わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。」と言っています。多くのクリスチャンは「私を裁かないで！」と言います。しかし、パウロは「そんなことをした者を既に裁いてしまっています。」と言います。明らかに、教会内の何人かのクリスチャンたちは神の恵みは罪を赦すから、とそれを許容してしまっていました。しかし、パウロは4節で「つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり。。。」と言っています。パウロは、「彼をあなたがたの集まりから除外するべきだ」と言います。そしてそうする時、「私たちの主イエスキリストの力によって、私の霊はそこにいる」と言います。そして5節に続きます。「このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。」これはどういう意味でしょう？

いいですか、ここでの「その肉が滅ぼされるように」とは早急な死を意味するものではありません。「肉が滅ぼされる」とは教会の守りと、霊的相互関係なしに、何でも自分の好きなことを好きなようにするように自制を投げ出すということです。なぜなら、あなたが神の教会から離れる時に、あなたは悪魔から攻撃を受けやすくなるのです！「肉が滅ぼされる」という表現に気をつけて見てください。（”身体”が滅ぼされると書いていません。）パウロは、この男性を支配していた肉的な情欲の破壊について話しているのです。パウロは愛を持ってこの話をしていたのでしょうか。多くのクリスチャンはあまり聞きたくないような聖書箇所を避けます。なぜなら、彼らの愛の定義がそこに書いてあることと合わないからです。しかし、ここでこの話をしているパウロは第１コリント１３章の、あの有名な愛の章を書いたパウロです。いいですか、パウロはこの男性を助け、回復させたいのです。「彼の霊が救われるために」です。これは「不屈な愛」と呼ばれるものです！この男性は、悪魔の領域に引き渡されてしまいました。なぜなら、彼の悔い改めない、頑固な心がそうさせたからです。しかし、これがこの男性の話の結末でしょうか？いいえ。違います、なぜならここでの目的は、パウロが言っているように、「それは主の日に彼の霊が救われるため」だからです。では、次のポイントを見ましょう。

２.キリストが命までかけた罪

「 6 あなたがたが誇っているのは、よくない。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。 7 いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。 8 だから、古いパン種や悪意と邪悪のパン種を用いないで、パン種の入っていない、純粋で真実のパンで過越祭を祝おうではありませんか。」

気づいてください。この問題が、健康的な教会のためにどれほど真剣な問題だったか。パウロは6節で教会を非難し続けました。「あなたがたが誇っているのは、よくない。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。」人々が教会の規律について考える時、教会全体のことを考えずに、人のことだけ考えます。しかし、パウロによると、その人を取り除かないことは教会全体のために良くない、のです。それはどういうことでしょうか？

例えば、コロナウィルスのような目に見えないウィルスがあなたの身体全体を病で犯し、命を奪うことがあります。だからウィルスにかかってしまった人たちはコミュニティから隔離されます。あなたが、その人に早く回復して治ってほしかったら、その人を隔離するのは愛ゆえにです。そして、コミュニティ全体の健康を守りたかったら、その人を隔離するのは愛です。小さな腫瘍は、広がって、大きな癌になる前に取り除かなければなりません。手術をしないとしても、病院に行って、検査を受けるのは心地いいものではありません。しかし、あなたが生きたければ、医者の専門的技術を信頼しなければなりません。ここでの話はこれと同じことです！聖書の言葉は、神の手術で使うメスです。私たちの心を切り開きます。そして、私たちを徐々に滅ぼしていく癌のような罪を取り除く聖霊を信頼しなければなりません。パウロは、「あなたがたの高慢は良くないことだ」（この男性と教会全体に対して）と言っています。あなたは、少しのパン種が生地全体を膨らませることを知っていますか？

いいですか、たった少しのパン種が、パンの生地全体を膨らませるのです。パン種は小さなものですがとてもパワフルです。パン生地全体を「膨らませる」のです。だから、パウロは、「コリントの悔い改めない教会メンバーが健全な関係を不健全な関係に変えている」と言っているのです。そしてこれは、会衆全体に対しての癌

的結果をもたらしました。そしてパウロが過越の祭の夕食の時の話をしていることにも気づいてください（出エジプト記12章）エジプトにいたユダヤ人たちは生贄の、羊の血を家の扉に塗りつけることで、神の怒りから「過ぎ超され」死から守られたのです。だから7節で、「いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。」とパウロは言っているのです。

いいですか、罪は完全な生贄の羊を必要とするほど真剣なものです。そして、何も罪を犯していないイエスが、私たちのために過越の祭用の子羊になられたのです。パウロは、十字架の上で「キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られた。」と言います。キリストは、私たちを罪の力から解放するために、十字架の上で血を流されたのです。キリストは私たちが「新しいパン」になれるように罪の「古いパン」を負って取り除いてくれたのです。言い換えると、パン種のような罪は、もはや私たちを支配する力がないのです。十字架の上で、私たちが受けるべきだった神の裁きが「過ぎ越され」たのです。なぜなら、私たちの過越祭の子羊、イエスキリストが犠牲となったからです。イエスの血によって私たちは内側から外側までもきよめられたのです。だから、パウロは、「あなたがたはパン種の入っていない者なのです。いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。」と言っているのです。ローマ書3:24では、パウロは「神はキリスト・イエスを遣わして、私たちの罪に対する償いをさせ、私たちへの怒りをとどめてくださいました。」キリストが私たちの過越祭の子羊となられたので、神は私たちの以前の罪をに対する怒りをとどめてくださいました。私たちが屠られないように、キリストが屠られました。私たちが罪の中にい続けることがないように、イエスには何も裁かれるべきことがなかったのに、私たちの罪のために裁きを受けてくださいました。私たちが新しいパン生地になれるように。だから、パウロは8節で言っているように、「だから、古いパン種や悪意と邪悪のパン種を用いないで、パン種の入っていない、純粋で真実のパンで過越祭を祝おうではありませんか。」と言っているのです。

いいですか、ユダヤ人の家族は過越祭用の子羊の血を扉に塗りつけた後、過越祭の夕食を食べていました。そして、彼らに１つだけ要求されていたのは、パン種を家の中のどこにも置かないことでした。パンの中だけにパン種を入れないのではなく、家の中にも残さないことでした。彼らは、種無しパンを、主がエジプトから急いで脱出させてくださったことを覚えておくために食べていました。だからパウロは、「だから私たちのために犠牲になった過越祭の子羊を祝いましょう。」と言っています。「悪意と邪悪のパン種」ではなく、「パン種の入っていない、純粋で真実のパンで」と言っています。「悪意」とは、問題を起こすことを恥と思わない心

のことです。パウロは、「悔い改めない罪を許容するのではなく、キリストをお祝いしよう！キリストが命までかけてくれた古いパン種、私たちの古い罪の性質ではなく、キリストをお祝いしよう。」と言っています。ローマ人のように、同棲や結婚外でのセックスを推奨し、私たちの内にある悔い改めない罪を許容するような、情欲で生きることはやめましょう。このために、キリストは私たちの「過越祭の子羊」となられたのです！イエスの恵みがどれほど代価を伴っているか見てください。イエスの犠牲がどれほどの代価を払っているか見てください。全てあなたのためです！あなたの罪の赦しのために血を流すほどまであなたを愛している、その愛の大きさを見てください。むしろパウロは「私たちの過越祭の子羊（イエス）をお祝いしよう！」と言っています。イエスに赦せない罪はありません。なぜなら、イエスは全ての、あらゆる罪のために命をかけたからです。イエスはあなたのために、子羊となって犠牲になったのです。私たちの「過越祭の子羊」です。私たちの罪深いライフスタイルやキリストの名誉を汚すような選択を祝うのではなく、キリストを祝いましょう。「パン種の入っていない、純粋で真実のパンで」私たちのために犠牲になってくれた子羊イエスを祝いましょう。イエスは、私たちが純粋さと真実さをもって、イエスの純潔さを現す、他とは違う、この世的ではないコミュニティとなってほしいのです。では、最後のポイントです。

3.私たちの内で働かれるキリストのきよさ

９-13節

「9 私は以前、あなたがたに手紙で、不品行な者たちと交際しないように書き送りました。 10 しかしそれは、信者でない人で性的な罪を犯している者、強欲な者、どろぼう、偶像を拝む者とは口もきくな、という意味ではありません。そのような人たちから離れていようとすれば、この世から出て行かなければならないからです。 11 私がほんとうに意図したところは、自分はクリスチャンだと公言している者で、しかも性的な罪にふける者、貪欲な者、人をだます者、偶像を拝む者、酒に酔う者、人をそしる者とはつき合うな、ということです。そのような者とは、いっしょに食事をすることもいけません。12-13 教会外の人たちをさばくことは、私たちの務めではありません。神おひとりのなさることです。しかし、教会員でありながら、このような罪を犯す者がいたら、教会として処置をとることは当然です。その悪い人を教会から除かなければなりません。」

パウロが９、１０節で言っていることに気づいてください。「私は以前、あなたがたに手紙で、不品行な者たちと交際しないように書き送りました。しかしそれは、

信者でない人で性的な罪を犯している者、強欲な者、どろぼう、偶像を拝む者とは口もきくな、という意味ではありません。そのような人たちから離れていようとすれば、この世から出て行かなければならないからです。」

パウロが言っているのは、ちょっと失敗して罪を犯してしまったけれど、悔い改めて神の恵みを求めている人のことではありません。パウロが言っているのは、クリスチャンであり、神の家族である人が、まるでノンクリスチャンかのように罪を悔い改めない態度をとっている人のことです。だからパウロはこう言います。「私は以前、あなたがたに手紙で、不品行な者たちと**交際しないように**書き送りました。 」パウロは前にコリントの人々に手紙を送っていました。（その手紙の書き写しは現代には残っていません）だから11節で「私がほんとうに意図したところは、自分はクリスチャンだと公言している者で、しかも性的な罪にふける者、貪欲な者、人をだます者、偶像を拝む者、口悪い悪口をいう者、酒に酔う者、人をそしる者とはつき合うな、ということです。そのような者とは、いっしょに食事をすることもいけません。」「つき合うな」ということは、一緒に時間を過ごしたり、親密な関係になるな、ということです。

つまり、何か深刻なことが起こらないとしても、その人と楽しく遊んだりしてはいけない、ということです。なぜでしょう？コミュニティの中で悔い改めない罪を見て見ぬふりをすることは愛ではないからです。なぜならパウロはキリストが（私たちの過越祭の子羊が）私たちの罪のために犠牲になったと言っているからです。もし誰かが、このキリストの犠牲を深刻にとらえないなら、11節で言っているように、その人とは「一緒に食事をすることも」いけないのです。一緒に食事をすることもいけない、とはどういう意味か？ その人は聖餐式（過越祭の食事と同じ）に参加できないということです。それはその人を愛しているのでしょうか？それとも排他的なことでしょうか？

多くの現代の人々は（クリスチャンも含む）この聖書箇所を読んで、「これは愛ではない、ものすごく排他的だ！」と考えます。なぜなら、現代人は個人的主義観念が強く、コミュニティを理解していないからです。現代の人々は聖書の言葉を裁き、はるかに高い道徳的根拠を主張するのです。彼らは、自分たちのことを包括的だと思っています。しかし、人間は皆、排他的な者です。もしあなたが「排他的な人々」を除外したら、あなたも排他的になっているのです。あなたが自分とは見解や意見が違つ人を拒むなら、あなたも排他的になっているのです。いいですか、現代の人々は聖書を読んでこう考えます。「これはとても批判的だ！」なぜでしょう？私たちは私たちの罪やライフスタイルを認めてくれる「神」が欲しいからです。私たちは、神に「あなたのしたいこと何でもしていいよ。」と自分の自己中心さを認めてくれることを言って欲しいのです。私たちは、きよい神様、私たちの罪

のために命までかけるほど愛してくれている神様、罪深く、崩壊している人生から救うために十分な力のある神様を求めないのです。私たちは私たちを裁く、十分な力のある神が欲しくないのです。私たちはまるで**自分のような**神を求めているのです。**これが問題です！**私たちは、自分のイメージと好みに合い、自分の罪深い選択を許してくれる神が欲しいのです。

気づいてください。10節と11節でパウロは２回も「偶像を拝む者」という言葉を使っています。これはとても重大なことです！いいですか、もしあなたの「神」があなたやあなたのライフスタイルに一度も反対しなかったら、あなたは自分がイメージしている偽の「神」を拝んでいるのです。もしあなたが礼拝している「イエス」があなたに一度も反対せず、あなたを一度も訓戒しないなら、あなたは、あなたのイメージの「イエス」を礼拝しているのです。それは本当の、聖書のイエスさまではありません。いいですか、私たちは皆、自分が考えるように考え、感じる「神」が欲しいのです。私たちは、**まるで自分自身のような神**が欲しいのです。これが偶像礼拝です！偶像礼拝は自分の想像で作り上げた「神」を礼拝していることです。私たちは、私たちを絶対に懲らしめなくて、いつも自分を認めてくれる神を求めているのです。しかし、もしあなたが、あなたを一度も不快な思いにさせることなく、あなたの願いや好みにいつも合わせてくれる「神」を求めているなら、その「神」は聖書にはいません。なぜなら聖書の「神」は、ここでパウロが言っているように、あなたの罪のために自分の命をかけ、あなたの罪深さを懲らしめ、裁き、それでも救ってくださる、十分に力のある神だからです！だから、この男性を除外したこの事例は、愛から来ているものです。なぜなら１コリント11:23-34で、あなたが聖餐式を罪の悔い改めなしにとったら、自分の上に裁きをもたらすと書いてあるからです。

いいですか、私たちはいつも神様ではない何か快適なものを求めているのです。言い換えると、私たちの心の奥深くにある情欲、欲深さ、酒に酔うこと、これらは、快適さを求める偶像礼拝です。私たちは**常に無意識的に**神を求めています。「性的な罪にふけること、貪欲なこと、人をだますこと、偶像を拝むこと、酒に酔うこと、人をそしること。。。」これらは最終的にあなたを後悔と恥の思いでいっぱいにさせ、虚しさだけが残ります。時には恐ろしい結果をもたらすこともあります。しかし、今日、そのようにならなくていいのです！なぜならイエスが私たちの「過越の子羊」になってくれたからです。イエスさまは他の何よりも優れた方です！13節でパウロは「教会外の人を裁くことは、神お一人のなさることです。」と言っています。もしあなたが教会のコミュニティ外にいるなら、あなたはいつかきよい神様と直面し、究極的な裁きを受けます。だから、裁かれないためには、あなたのために犠牲になられたキリストを、過越祭の子羊を受け取ることです。今日、キリストの

ところへ行きましょう！イエスキリストはこの世にある全てのどんなことよりも、何よりも素晴らしい方です！

キリストご自身が私たちのきよさです。もしあなたがキリストを愛しているなら、キリストが命までかけた罪を憎むようになります。パウロは、「しかし、教会員でありながら、このような罪を犯す者がいたら、教会として処置をとることは当然です。」と言います。そして２コリント２章でこの男性は、実際、悔い改め、回復し、フェローシップに戻ってきたのです！いいですか、私たちの愛に溢れたお父さんである神様は、愛する者に規律を与えます。教会の規律は、その瞬間は心地よく感じないかもしれませんが、それは私たちをきよめ、キリストのイメージに似せていくための神様のやり方です。そして、私たちがこれに従うのは、私たちがこの世の価値観とは明らかに違う神のコミュニティとして、私たちを見ているこの世界のために対しても、キリストの御名を尊重し、たたえるためです。